

平成28年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT28330 どうしてルールを守らなくてはならないのか？ 中学生のための法学入門



開催日：平成28年8月24日(水)

実施機関：都城工業高等専門学校

(実施場所) (専攻科研究棟2階 多目的ホール)

実施代表者：吉井 千周

(所属・職名) (一般科目文科・准教授)

受講生：中学生 11名

関連URL：<http://www.miyakonojo-nct.ac.jp/~techcen/koza.html>

【実施内容】

・プログラムの工夫

対象年齢である中学生に向けて、これまで未知の分野である「法学」という知識ベースの学問を伝えるプログラムであることから、高専の本科学学生を5名配置し、すぐに中学生の疑問に対応できるようにした。また、アクティブラーニングの技法を用いて、一方通行的な講義とならないよう参加者の中学生が自発的に学べるような環境を作った。



写真1 会場の様子(挨拶時)



写真2 補助者の紹介

・当日のスケジュール

時間	内容
9:40～10:00	受付(都城工業高等専門学校 専攻科研究棟ピロティ)
10:00～10:20	開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費の説明)
10:20～11:05	講義①「ルールとは何か・少数民族のルールとわたしたち」
11:15～12:00	講義②「ルールのある世界／ない世界」
12:00～13:00	昼食／休憩
13:00～14:30	ワークショップ①「ルールを探す」
14:30～14:50	クッキータイム
14:50～16:00	ワークショップ②「ルールを見つける」
16:00～16:30	ディスカッション
16:35～16:55	修了式(アンケート記入、未来博士号授与、全体写真撮影)
17:00	終了・解散

### 講義①「ルールとは何か・少数民族のルールとわたしたち」

簡単な自己紹介から初めて、社会科学の位置づけ、日本の法体系・法学の学問分野について説明。法学を含む社会科学の科学的要素客観性と反証可能性について解説。そののち、法学分野における基礎法学と実体法学の違いを説明。中学生が持ちがちな「法律の条文を当てはめるガクモン」という法学へのイメージを払拭し、法学のダイナミクスを理解してもらった。



写真4 講義風景

### 講義②「ルールのある世界／ない世界」

山岳民族モン族の事例を使って、ルールの産まれる瞬間と、ルールが維持される仕組みを説明した。また私たちの身の回りにあるルールがどのようにして維持され、また他の複数のルールと共存していくかを解説した。その過程の中で5人の補助者を適時配置し、難しい語句についてフォローアップを行ってもらった。

### ワークショップ①「ルールを探す」

午後のワークショップでは、アイスブレイクからはじめて、子ども達に自由に「ルールの作り方」についてワークをしてもらった。議論の際には、アクティブラーニング技法の一つであるジグソー法を用いて、文献読解とまとめをしてもらった。ワークショップ①では、1 職業、2 過労死、3 女性問題、4 会社運営、5 労働問題に関する5つの文章を読んでもらいその理解を進めた。



写真5 アイスブレイク



写真6 ジグソー法の解説

### ワークショップ②「ルールを見つける」・ディスカッション

ワークショップ②では、ワークショップ①の内容を踏まえ、文献の読み込みと法的な問題について考察してもらった。ジグソー法終了後は、ブレインストーミングを行い、KJ法とマッピング法によるまとめを行ってもらい、「ど

「いったいルールがあれば人は幸せになれるか」を考えてもらった。



写真7 ジグソー法による文献理解



写真8 ブレインストーミング後の発表

修了式(アンケート記入、未来博士号授与、全体写真撮影)



写真9 講評



写真10 未来博士号授与

【実施分担者】

なし

【実施協力者】 5 名

【事務担当者】

梶木清夏 都城高専総務課企画係

溝ノ口里美 都城高専総務課企画係